

ONCC 12期生 てくてくウォーキング科

5月17日（金）

竹内街道につながる難波宮周辺を散策

2回目の「てくてくウォーキング」は、竹内街道につながる難波宮とその周辺を散策しました。班毎に分かれて、法円坂倉庫群、難波宮史跡公園、森の宮遺跡、鵠森宮（かささぎもりのみや）を巡った時点でクラスとしての探訪は終了となり、ガイドさんに挨拶して別れました。午後は班活動として大阪カテドラル聖マリア大聖堂、越中井、三光神社などを巡り、地下鉄玉造駅で解散しました。

9:50 大阪歴史博物館 1階ロビーに集合して各班にガイドさん（大阪観光ボランティアガイド協会）1名がつき、班毎に出発しました。



大阪歴史博物館のすぐ横にある法円坂高床倉庫前では担当ガイドさんの自己紹介と倉庫群の説明を聞きました。



「並び倉」は 90.5 m の広さを持ち、東大寺の正倉院に類似した構造を持っていました。



難波宮史跡公園の西八角殿跡は、前期難波宮だけの特徴的な建物です。

これまでの調査・研究により、難波宮は前後 2 時期の宮殿遺構がほぼ同じ場所に重複して造営されていたことが明らかになっています。

前期（7 世紀）：飛鳥時代

後期（8 世紀）：奈良時代



後期難波宮の中で一番中心となるのは大極殿で、中国風の建物でした。ここでは正月の祝いや外国からの客の歓迎会、国をあげての儀式などが行われました。



森の宮遺跡展示室は森の宮ピロティーホールの地下にありました。屈葬された縄文人の骨や土器などが展示されていました。

貝塚から出土した大量のマガキ（海水生息）の貝殻からセタシジミ（淡水生息）の貝殻への移り変わりは、河内平野が徐々に海から陸地になっていった経過を物語っています。



鵺（かささぎ）森宮は聖徳太子の創建です。創建当時は、「方八町にして神領神田広大」といわれるほどの社領がありました。織田信長の石山合戦の際、土地を略奪され、社殿も焼失しました。現在の社殿は昭和初期に建設されたものです。

本殿西側には、「鵺の 渡せる橋に置く霜の白きを見れば 夜ぞ更けにける」と詠んだ大伴家持の歌碑がありました。



午後の班活動では、Q's MALL で昼食を済ませて下記を巡った後、解散しました。
 好天に恵まれ、かつ風も涼しく快適な 1 日を過ごすことができました。



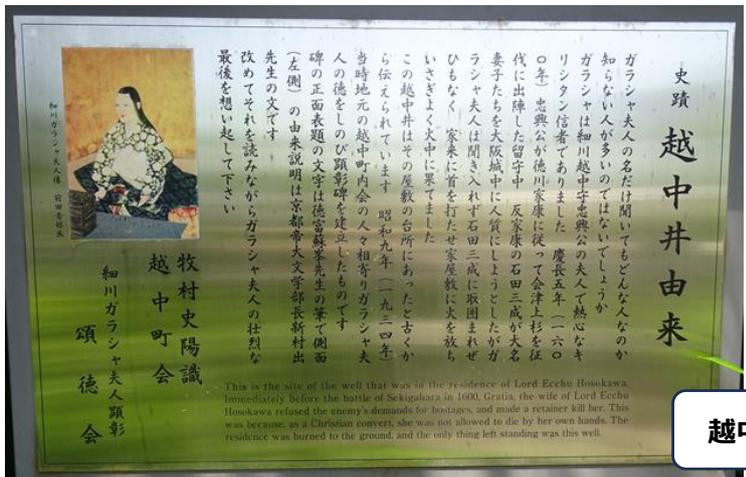
大阪カテドラル聖マリア大聖堂



高山右近像



細川ガラシア像



越中井



三光神社



真田の抜穴



真田幸村像

(1 班広報担当)